

8-1-5 対外活動委員会WG（水資源機構）

1. WG 発足の経緯

(1) 背景

水資源機構について平成 24 年度に常任理事会で同様の意見交換会を行うことが望ましいとの決定があり WG が発足された。

(2) 意見交換準備会

平成 24 年 9 月 27 日に、水資源機構本社にて、機構側、副理事長以下 18 名、協会側、副委員長以下 8 名が出席して、意見交換準備会が開催され、機構側から入札契約制度の説明を受け、意見交換を行い、今後とも協議していくことが確認された。

意見交換の後、今後年 1 回、同程度のメンバーで意見交換会を行うことが確認された。

(3) WG の設立

水資源機構との意見交換会での「要望と提案」及び【付属資料】を作成するための WG を平成 25 年度から設立し、平成 26 年度には委員会から新たな WG 長を選出し、河川計画、河川構造、ダム・発電（含、地質分科会）、環境の 4 専門委員会の委員長を含めた計 8 名体制で検討を進めている。

2. 主な活動の記録

(1) WG の開催

令和 5 年 9 月 6 日に WG を開催し、4 専門委員会からの意見を反映して、水資源機構に向けた「要望と提案」及び【付属資料】を作成した。

(2) 準備会の開催

令和 5 年度の意見交換会の事前協議として、10 月 30 日に水資源機構本社で、水機構側 10 名、協会側 8 名が出席して意見交換会準備会を開催し、双方の資料の確認を行った。

(3) 意見交換会の開催

令和 5 年 12 月 6 日に水資源機構本社で、水機構側 15 名、協会側 14 名が出席して意見交換が行われ、その後、懇親会が行われた。

3. 水資源機構向け「要望と提案」の骨子

意見交換会に用いた「要望と提案」は以下の通

りである。

I. 担い手確保・育成のための環境整備

- (1) 建設産業全体の働き方改革と生産性向上に向けた受発注者協働による取組み推進・強化
- (2) 受発注協働による災害対応に向けた継続的な環境改善
- (3) 企業経営の安定と処遇改善・新たな事業推進形態に向けての環境整備
- (4) 人材の確保・育成

II. 技術力による選定

- (1) プロポーザル方式の積極的な採用・総合評価落札方式等の適格な運用・改善
- (2) 発注方式の改善（技術力を基本とした選定・発注の仕組みの導入促進）
- (3) 予定価格の適切な設定
- (4) 地域コンサルタントの活用の拡大と育成
- (5) 履行確実性評価の運用の徹底
- (6) 技術点の評価方法について、各項目に対する評価配分の公表（評価結果における細目の公表）
- (7) 参加要件において「水機構業務での管理技術者実績や担当者実績」を「水機構業務での実績」への変更

III. 品質の確保・向上

- (1) 受発注者それぞれの役割を踏まえたエラー防止への取組み
- (2) 詳細設計及び三者会議等における総合的品質の確保
- (3) 維持管理・更新事業等における技術的課題解消に向けた発注契約方式などの改善

IV. 「DX 推進の環境整備」と「成長と分配の好循環の実現」

- (1) DX の推進
- (2) DX の推進の費用面での環境整備
- (3) 「成長と分配の好循環」の実現

4. 今後の活動について

令和 6 年度についても、令和 5 年度と同様のスケジュールで、水資源機構との意見交換会に向けた「提案と要望」及び【調査資料集】、【調査資料集】概要版を作成し、意見交換を行う。

（対外活動委員会WG（水資源機構）WG 長

富田 邦裕）